

安全安心な街づくりのために
課題の解決に取り組む
鶴間町内会



加入に関するお問い合わせ：町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262

he said,

歩行者は駅へスムーズに向かえるように 狭い道路に車があふれないように 課題解決のための活動を続けていきます



町田市最南端の町として、近隣との関わりも大切にしながらやっていきたいと語る井上副会長

町田市の町内会・自治会の総数は現在310、加入世帯率は平均約51%。その活動内容は地域住民の交流や親睦を図り、相互扶助を促進することが大切なのは言うまでもないが、安全で住みやすい環境を築くために近隣エリアの街づくりに積極的に参加することも必要だ。そして、その活動をずっと続けてきたのが、町田市最南端に位置する鶴間町内会だ。南町田駅周辺地区整備計画検討会の一員として、南町田拠点創出まちづくりプロジェクトに関わってきた。

鶴間町内会は、鶴間三丁目の一部から八丁目、南町田五丁目の一部まで、1900世帯が加入する大所帯の町内会だ。北西側は先ごろまちびらきした「南町田グランベリーパーク」に隣接し、東急田園都市線の旧南町田駅は名称も一新され、平日にも急行が停車するようになった。一方、国道246号線の南側に行くとも雰囲気はがらりと変わる。旧道沿いには16世紀に開山したと言われる圓成寺や日枝神社など由緒ある歴史的建造物や旧家も残り、どこかのどかな趣

きが漂っている。

町内会のイベントは多岐にわたる。6月には鶴間小学校で開催される大運動会、夏には納涼盆踊り、11月には地元農家の新鮮野菜販売や模擬店に500名もの住民で賑わうオータムフェスタ、また1月にはどんど焼きなど、この地域ならではの行事が続いている。町内会役員や民生委員、ボランティアなど様々な人が関わる子育て世代のための「ふるまっこひろば」は、産後エクササイズ「ママフィット」や絵本の読み聞かせが好評だ。12月にはプレゼントを持ったサンタも登場し、子どもたちは大喜びする。

そんな鶴間町内会にはかねてから頭を悩ませている問題があった。昭和40〜50年代に区画整理が行われた際に、国道によってエリアが分断されてしまったことだ。「現在南側から駅へまっすぐ向かうには、銀河歩道橋を渡って国道246号線を越えるしかありません。ただ、渡った先の道はくねっていて、歩道もなく道幅も狭い。高齢者には階段も負担です」町内会副会長の井上義次さんはこう語る。

そのような状況を打開するために、町内会では町田市や東急株式会社とともに、検討会を通じて今回のプロジェクトの中でも解決方法を探ってきた。その結果、道路の拡幅や歩道直線化など、少しずつ状況は改善し始めた。

一方で車の問題は依然として残っている。南側に隣接する横浜市瀬谷区には大規模な集合住宅があり、家族を駅へ送迎する車両のほとんどが鶴間町内を抜けて行くのだ。学校へ通う子ども達も使う昔ながらの狭い道に車があふれ返ることも多い。町内会でも協力して下校時の見守り活動を行っているが、安心できないのが現状だという。

街づくりにおける課題はまだまだ尽きることはないが、住民が安心して暮らせる街の実現にむけて、関係機関や近隣とも連携・協力しながら、解決のための活動を続けるという井上副会長。まちびらきを終え、大きな賑わいを見せる注目エリアのすぐ近くで、穏やかに豊かな暮らしを大切にした町内会の活動はこれからも続いていく。



左)40回目の大運動会ではパン食い競争や大縄跳びで盛り上がった 中)賀詞交歓会の奉迎会は来賓を迎え和やかに 右)毎年400〜500名が来場して賑わうオータムフェスタ
右ページは左から副会長・井上義次さん、防災防犯部長・出居正雄さん。戦国時代創建とされる圓成寺にて